

2 トレーニング指導者課程

◇トレーニング指導者（以下、ATIという。）とは

特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会（以下、JATIという。）が認定する資格の一つで、トレーニング指導の対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を習得したと認められた者に授与されます。スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導の専門家として活動するための基礎資格として位置づけられています。

本学は、JATIの養成校として平成24年4月から、医療科学部東京柔道整復学科及び平成26年4月から医療科学部柔道整復学科ならびに令和7年4月から理学療法学科、作業療法学科にトレーニング指導者課程（以下、ATI課程）を開設しました。

ATI資格取得者は、競技スポーツ分野（プロや社会人チームのトレーニングコーチ、高校や大学の運動部のトレーニング指導者、アスリートを対象としたトレーニングの個人指導を行うパーソナルトレーナーなど）や健康増進分野（民間及び公共運動施設（フィットネスクラブや市町村体育館など）の運動指導者や一般人を対象としたパーソナルトレーナーなど）などで活躍しています。

◇履修登録及びトレーニング指導者課程履修費

ATI課程の履修を希望する1年次生は、ATI課程ガイダンスに必ず出席すること。このガイダンスに出席しない者は、履修登録を受け付けません。

ATI課程履修費として20,000円が必要となります。

徴収したATI課程履修費は、いかなる理由があっても返還しません。

◇ATIの資格取得及び履修科目（帝京科学大学履修規則別記6より抜粋）

次の授業科目を履修し、必要な単位数を取得すれば、ATI認定試験の受験資格を得ることができます。

ATI認定試験に合格し、JATIの会員登録手続きをすることにより、ATIとして認定されます。

（トレーニング指導者養成のための課程の履修）

履修規則第25条に基づく、ATI課程の履修は、次表のとおりとする。

日本トレーニング指導者協会が定めるカリキュラムの各科目名に対応する本学開講科目をすべて履修すること。ただし、対応する本学開講科目名が複数ある場合は、いずれか1科目以上を修得すること。ただし（ ）カッコで囲まれた科目は、複数科目の履修を必須とする。

東京柔道整復学科

1 一般科目

| 日本トレーニング指導者協会が定めるカリキュラム | | 対応する本学開講科目名 |
|-------------------------|-------------------------------------|-------------------------|
| 領域 | 科目名 | |
| A. 体カトレーニング総論 | 体カトレーニング総論 | スポーツトレーニング入門 |
| B. 機能解剖 | 機能解剖(1) 上肢 | 3科目全て（解剖学Ⅰ,解剖学Ⅱ,運動学と行動） |
| | 機能解剖(2) 脊柱と胸郭 | |
| | 機能解剖(3) 骨盤と下肢 | |
| C. バイオメカニクス | バイオメカニクス(1) 基礎理論 | バイオメカニクス |
| | バイオメカニクス(2) スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス | |

| | | |
|----------|---------------------------|------------------------|
| D. 運動生理学 | 運動生理学(1)呼吸循環器系・エネルギー代謝と運動 | 2科目全て(生理学Ⅱ,生理学Ⅲ) |
| | 運動生理学(2)骨格筋系・神経系・内分泌系と運動 | 2科目全て(生理学Ⅰ,生理学Ⅱ) |
| E. 運動と栄養 | 運動と栄養(1)運動と栄養の基礎理論 | スポーツと食事 |
| | 運動と栄養(2)対象と目的に応じた栄養摂取 | |
| F. 運動と心理 | 運動と心理(1)運動と心理の基礎理論 | スポーツ心理学基礎 |
| | 運動と心理(2)運動学習と指導法 | |
| G. 運動と医学 | 運動と医学(1)生活習慣病 | 2科目全て(一般臨床医学Ⅰ、一般臨床医学Ⅱ) |
| | 運動と医学(2)スポーツ傷害 | スポーツ医学概論 |
| | 運動と医学(3)救命救急法 | 救急医療、救急医療(実践)、基礎整復学Ⅴ |

2 専門科目

| | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|--------------|
| A. トレーニング指導者論 | トレーニング指導者の役割 | コーチング論Ⅰ |
| | トレーニング指導者の実務 | コンディショニングⅠ |
| B. 測定と評価 | トレーニング効果の測定と評価 | スポーツトレーニング入門 |
| | 測定データの分析とデータの活用 | コンディショニングⅠ |
| C. トレーニング理論とプログラム | 長期的トレーニング計画 | スポーツトレーニング入門 |
| | レジスタンストレーニング | コンディショニングⅠ |
| | パワートレーニング | |
| | 持久カトレーニング | |
| | スピードトレーニング | |
| | 柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウン、リカバリー | |
| | 特別な対象のためのトレーニングとプログラム | |
| | 生活習慣病、傷害の受傷から復帰までのトレーニングプログラム | |
| | | |
| D. トレーニングの実技と指導法 ※実習を伴う内容であることが必要 | レジスタンストレーニングの実技と指導法 | コンディショニングⅠ |
| | パワートレーニングの実技と指導法 | |
| | 持久カトレーニングの実技と指導法 | |
| | スピードトレーニングの実技と指導法 | |
| | ウォームアップと柔軟性トレーニング、その他のトレーニング実技と指導法 | |